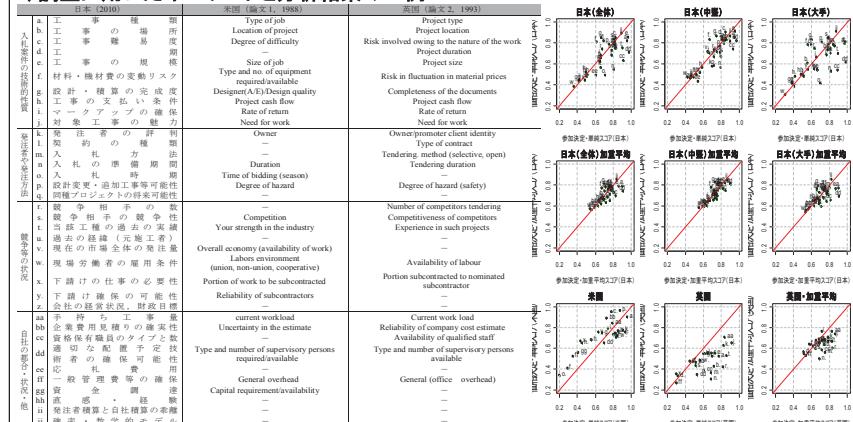




# 公共調達における建設企業の応札戦略の分析

[キーワード: 公共調達, 応札戦略, 入札結果情報] 準教授 滑川 達

## 1) 調査に用いたキーワードと分析結果の一例



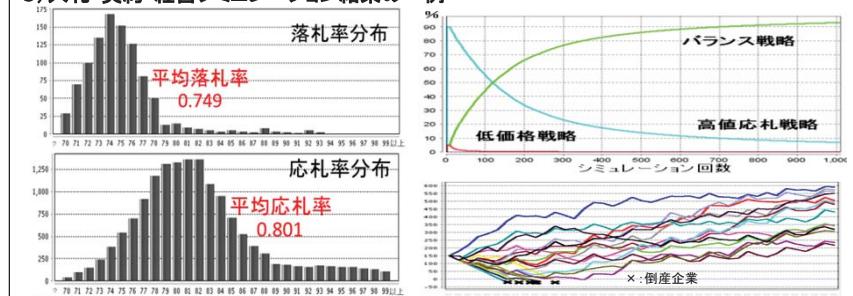
## 2) 入札結果情報の統計分析の一例

Dependent Variable: log(preservedetermined) n=8344

Method: Least Squares

	標準化係数 $\beta$	有意確率 t	共線性的統計量 許容度 VIF	標準化係数 $\beta$	有意確率 t	共線性的統計量 許容度 VIF
C	10.620	0.0000 ***		10.842	0.0000 ***	
log(WIN)	0.988	539.941	0.0000 ***	0.996	1.004	
PARTICIPANTS	0.048	26.283	0.0000 ***	0.998	1.002	
PRE.PARTICIPANTS						
UNIT × 2007_dummy	-0.002	-0.844	0.3988	0.994	1.007	0.051 27.966 0.0000 *** 0.995 1.005
UNIT × 2008_dummy	-0.003	-1.641	0.1009	0.992	1.008	0.000 -0.057 0.9547 0.994 1.007
UNIT × 2009_dummy	-0.004	-2.107	0.0352 **	0.993	1.007	-0.002 -0.974 0.3301 0.990 1.010
UNIT × 2010_dummy	-0.005	-2.811	0.0050 ***	0.994	1.006	-0.005 -2.680 0.0074 ** 0.993 1.007
R		0.9874			0.9877	
R-squared		0.9749			0.9755	
Adjusted R-squared		0.9749			0.9755	
S.E.of regression		0.0301			0.0296	
Durbin-Watson test		1.5656			1.5755	

## 3) 入札・契約・経営シミュレーション結果の一例



### 内容:

近年、我が国の公共調達制度は、指名競争入札から一般競争入札へ、その適用範囲の拡大・総合評価方式の試行などダイナミックに変化・多様化している。一方、制度・運用面の急激な変化や多様化は、応札者・発注者双方の入札・契約担当者を混乱させるばかりか、建設業の経営環境を不安定にする恐れもあるなど、現場では戸惑いや不満の声が絶えない。また、企業の応札戦略は制度を規定する極めて重要な要因といえるが、応札戦略と公共調達制度、相互の影響メカニズムについては必ずしも十分な分析・議論がなされているとは言い難い。我々は、公共調達制度の変化が、建設企業の応札戦略に及ぼす影響を分析している。

1)建設企業の応札戦略に係わる意識の調査分析: 日本の大手建設企業の入札行動に係わる意識を探るため、先行する米・英の「経験的スタディ」とされる3論文を参考にした日本版質問紙調査票を開発している。調査票の設問には日本独自の事情を一部取り入れ反映させており、その内容は、入札への参加の決定、また、入札価格、の決定の際に重視する項目について、36のキーワードを用意しそれらの重視度を問うものとなっている。

2)入札結果情報のモニタリング: データベース型積算方式の1つであるユニットプライス型積算方式では、売り手が提示する単価に基づいた実行予算の考え方に対する近い価格形成が図られる期待されてきた。しかし、2012年10月に施工パッケージ型積算方式に移行し、事実上廃止された。我々は、過剰供給構造下におけるデータベース型積算方式が市場の変化や入札者の行動変化によって受けた影響を予定価格の回帰分析によって検証している。その結果、2009年度以降ユニプラは、予定価格を引き下げる影響を有し、その係数も年度毎に大きくなる傾向があること等を明らかにしている。

3)入札・契約・経営シミュレーション: 地方建設業を想定した仮想的な入札・契約・経営シミュレーションモデルを構築し、公共調達制度の変遷メカニズムを検討するとともに、応札戦略が公共調達制度や企業の中長期的経営に与える影響について分析・考察し、改革シナリオについて提案を試みている。

分野: 建設マネジメント

専門: 公共調達制度

E-mail: namerikawa@ce.tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-9877

Fax: 088-656-7579